

### ◇ 理事長メッセージ



日本 EU 学会理事長  
岩田健治 (九州大学)

2017年4月より2年の任期で、日本 EU 学会理事長を拝命致しました。会員の皆様と力を合わせ、また関係諸団体とも協力しながら、学会の一層の発展を目指して微力ながら尽力して参りたいと存じます。

1980年の創立以来、日本 EC/EU 学会は、様々な困難や危機に直面しつつも常に統合を「深化」させつつ「拡大」する EC/EU を研究対象としてきました。ところが昨年6月の英国の EU 離脱決定(Brexit)を境に「拡大」はもはや所与ではなくなり、本年3月に欧州委員会が発出した『欧州の将来に関する白書』では「深化」を放棄するシナリオも検討されています。巷には EU やユーロの崩壊をタイトルとする文献が広く流通しています。

もちろん EU はそう簡単には崩壊しませんし、ユーロも制度改革次第では存続発展が可能であることは言を俟ちません。しかし同時に、私たち EU 研究者は、なぜ EU 統合が困難に直面しているのか、そしてそうした困難はどのように

解決可能なのか、ディシプリン横断型学会の強みを生かして解明し、その成果をブレることなく社会に発信するという大きな課題を新たに背負ったものと考えられます。その成否は、学会の中長期的な消長にも大きく影響して参りましょう。その意味で、この間、当学会会員が長年の研究に裏打ちされた的確な知見を、各種メディアを通じて広く社会に発信していることは大変意義あることと考えます。

そうした社会的成果を生み出す学会のアカデミックな活動の基軸は、いうまでもなく年次の研究大会と『日本 EU 学会年報』であります。本年11月18-19日には九州大学にて、第38回(2017年度)研究大会が共通論題「ローマ条約60年—危機の中の再検証—」のもとで開催され

### 目次

- ◇理事長メッセージ……………岩田健治
  - ◇EUSA-AP 開催報告……………羽場久美子
  - ◇EU 関連文献紹介
  - ◇事務局からのお知らせ
    - ・新入会員一覧
    - ・第38回(2017年度)研究大会  
暫定プログラム
    - ・第39回研究大会企画委員会
    - ・理事職務分担の変更について
  - ◇広報委員会から
    - ・EU 関連書文献紹介コーナー設置について
    - ・ニューズレター原稿の募集
- \*暫定プログラムは最終2ページ掲載です。

ます。同大会では、試行的にポスターセッションも設けられます。多くの会員の皆様の参加をお待ちしております。

年次の研究大会に加え、本年度は 7 月 1-2 日に、2005 年の慶応義塾大学大会以来 12 年ぶりにアジア太平洋 EU 学会(EUSA-AP)大会が日本で開催されました。開催校の青山学院大学・羽場久美子理事を中心に大会実行委員会が組成され精力的にご準備をいただいた結果、世界 23 カ国から 130 名超の参加を得て、大会は成功裡に終わりました。ホスト国の学会として開催の準備に当たられた実行委員会の皆様、報告者や座長・副座長として登壇された会員の皆様、各種のご支援をいただいた関係諸機関の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げる次第です。

さて、ピーク時の 2000 年代に 500 名を優に超えた学会会員も、2017 年 3 月末時点で 467 名にまで減少しています。少子高齢化、日本の高等教育政策における人文学・社会科学の軽視(=組織再編圧力や予算削減等)、インターネット時代の「地域研究」の手法や社会的役割の変化など、諸要因が複合的に絡みあった結果と考えられます。会員全体の努力で学会大会や学会誌のアカデミックな質を維持・発展させることこそが、こうした流れに抗する基本と考えますが、加えてこの間、歴代理事長・事務局長のイニシアティブのもと、理事選挙制度の導入・改革、大会プログラム拡充のための企画委員会の創設、国際交流委員会の創設、若手会員育成のための地域部会の立ち上げ決定など、学会活性化に向けた各種の積極的な改革が実施されて参りました。また学会運営のサステナビリティという観点から、従来事務局長に過度に集中していた業務の分散化も図られて参りました。こうした改革に取り組んでこられた歴代執行部の皆様、とりわけこの 3 月に退任された福田耕治理事長と小久保康之事務局長に厚く御礼申し上げます。

今後とも、後任の森井裕一事務局長と力をあわせ、学会の一層の活性化に取り組んで参る所

存です。本年 4 月の理事会では、直近の理事長・事務局長経験者からなる制度改革委員会も立ちあがり、改革を継続する体制も整えられました。他にも、地域部会の具体化、EUSA-AP 大会開催後の新たな長期的予算方針の確立、学会員向けメール配信システムの再構築など課題が山積しております。会員の皆様のお知恵を得ながら、こうした諸課題に取り組んで参る所存です。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



---

## EUSA-AP 開催報告

---

### アジア太平洋 EU 学会(EUSA AP)2017 年 東京大会開催と EU 学会皆様へのお礼

大会実行委員長 羽場久美子  
(青山学院大学)

2017 年 7 月 1 日 2 日、アジア太平洋 EU 学会 European Union Studies Association Asia Pacific Annual Conference 2017 が、日本 EU 学会と EUSA AP 本部 (New Zealand) の主催、世界 23 か国 (内欧州 10 か国、アジア 13 か国) 162 名の参加により、2005 年の東京・慶應義塾大学での開催に続き、2017 年東京・青山学院大学にて開催されました。

タイトルは The Roles of the EU and the Asia Pacific in the Global Era - Politics, International Relations, Economics and Law (グローバル時代のアジア太平洋における EU の役割)。文字通り、政治・経済・法律・国際関係の専門家が学際的に参加できるテーマで、激動の時代の EU を分析する優れた報告とパネルが並び、各国の Presidents と EU 学会理事の共同座長で、非常に高いレベルの報告と活発な議論

が展開されました。

Opening Speech では、理事長、副学長、実行委員長、EUSA AP 事務局長の挨拶、日本 EU 学会久保・須網両元理事長、駐韓国 EU 大使 Michael Reiterer による Keynote speech で幕を開けました。2 日間のパネルでは BREXIT、ユーロ危機、FTA、移民・難民、アジアの地域統合、ローマ条約 60 年など、6 人ずつ 23 パネル計 138 名と、院生 16 人と座長 2 名からなる 4 パネル 24 名計 162 名の充実した報告と討論が行われました。また、1 日目夕方には朝日新聞社編集局長補佐の梅原氏司会による「EU の現在・未来」と題する講演会があり、EU 代表部政治局 Fabien Fiechi、日欧産業協力センター事務局長 Silviu Jora、元 IMF 専務理事篠原尚之、M.Reiterer 各氏が報告し、多くの聴衆が参加しました。関係者だけでも全体で 172 名、延べ人数 200 名を超える参加者が集いました。

EUSA AP 本部からも、過去最大の参加国・参加数であり、報告・論文の水準も極めて高く大盛会であったとお褒めいただきました。

本大会のためにご尽力下さった日本 EU 学会岩田理事長・森井事務局長、福田前理事長・小久保前事務局長、顧問の田中先生、委員の安江先生、中西先生、広報の臼井先生、Co-Chair で奮闘下さった理事の方々、参加されたすべての会員の方々、EUSA AP 本部の方々、早稲田の吉沢さんにご協力を心より感謝申し上げます。おかげさまで素晴らしく充実した大会となりました。皆様のご尽力・ご協力の賜物です。ありがとうございました。

EUSA AP は、冷戦終焉 10 年を迎える 1999 年 12 月にアジア太平洋の EU 学会のアンブレラ組織として設立され今年 18 年目です。創設メンバーは韓国、日本、ニュージーランド、田中先生は創設者の一人として EUSA AP を支え、現在 10 地域（インド、オーストラリア、韓国、タイ、台湾、中国、日本、ニュージーランド、香港、マカオ）が理事長国です。

今回大型資金を受けられず苦渋の船出でしたが、EU 学会の支援、EUSA AP 本部の支援、参加登録費、早稲田大学、九州大学、青山学院大学の支援を得られたのもありがたいことでした。また早稲田大学、東京大学、一橋大学、青山学院大学からは献身的で優秀な学生・院生たちが 2 日間お手伝い下さいました。

皆様のご配慮、ご支援、ご教授にお礼の申し上げようもないほど感謝しております。ありがとうございました。伊藤理事と富士ゼロックスのご支援により昼食時のデモンストレーションもいただき企業連携もできました。

懇親会では学長および EUSA AP を支えるアジア太平洋 10 地域の理事長が挨拶され、八谷先生が立派な司会を務めて下さいました。会場は大入り満員の大盛況で、24 か国 160 人余の方々との相互交流、若手交流も圧巻でした。最終日の Farewell Party は和食炉端で、別れの時には皆抱き合い手を握り合って別れを惜しみ、2018 年の開催地「台湾で会いましょう！」と誓い合いました。

BREXIT のパネルの論文は近く Springer から出版予定です。また多くの論文が EUSA AP の Journal に投稿予定と聞きます。

EUSA AP の Proceedings 報告集はまだ若干余部があります。希望される方は青山学院大学 EUSA AP 羽場までご連絡下さい。お送り致します。

EU 学会準備委員会、実行委員会、理事会、会員の皆様のご協力により EUSA AP2 度目の大型国際会議を実現・無事終了できたことに改めて感謝いたしますとともに、将来 3 度目の会議を招聘すべく優れた頼もしい若手の方々が多数育ったことにも心より期待し感謝申し上げます。ありがとうございました。





## ◇学会理事会の新体制発足について

2017年4月1日より、新たな理事会体制が発足いたしました。また、事務局も新しくなりました。それに伴い、事務局連絡先が変わりましたので、ご注意ください。

### 日本 EU 学会理事会体制 (2017年4月～2019年3月)

理事長 岩田健治  
事務局長 森井裕一

#### 編集委員会

委員長 高屋定美 (2018年3月まで)

経済 E 小島健、松浦一悦

法律 L 中西優美子、中村民雄

政治・社会 細谷雄一、鷺江義勝

#### P/SC

電子 ジャーナル 鷺江義勝

#### 広報委員会

委員長 白井陽一郎  
上田純子、八谷まち子

会計担当 渡邊啓貴

監事 星野郁、由布節子

国際交流委員会 羽場久美子、井上典之、上田廣美、安江則子

#### 学術関係担当

経済 E 伊藤さゆり、円居総一、尾上修悟、久保広正、蓮見雄

法律 L 大藤紀子、庄司克宏、須網隆夫

政治・社会 P/SC 植田隆子、小久保康之、福田耕治

学術会議担当 羽場久美子

制度改革委員会 岩田健治、須網隆夫、福田耕治、小久保康之、森井裕一

## ■新事務局

森井裕一

〒153-8902 目黒区駒場3-8-1

東京大学 大学院 総合文化研究科

Tel: 03-5454-6358

E-mail: ymorii\*ask.c.u-tokyo.ac.jp

(\*を@に)



## 広報委員会から

### ◇EU 関連文献紹介コーナーのご案内

毎年夏のニューズレターで、前年度内に発行された EU 関連書籍の紹介コーナーを設けます。これは、会員個人の業績をお知らせするものではなく、あくまでも、EU 研究にとっての新刊参考文献を広く会員諸氏にご案内することで、情報の共有をはかることを目的にいたします。当学会会員の執筆による、単著または共著の出版物のみ（紀要、定期刊行物を除きます）に限らせていただきます。ニューズレターへの掲載は、書名、著者もしくは編者のお名前、出版社、出版年月日のみとさせていただきます。随時受け付けますので、皆様からのお知らせをお待ちいたします。前述の情報を、NL 担当広報委員までメールでお知らせください。

### ◇ニューズレター原稿の募集

広報委員会では、会員の皆様方からのご寄稿を常時募集しています。内容は問いません。ご寄稿いただいた原稿のニューズレターへの掲載については広報委員会にご一任をお願いします。分量：横書き 1200 字程度。期限：随時受け付けますが、ニューズレター

の夏・冬年 2 回発行にあわせ、6 月末日 12 月末日がそれぞれ締め切り日となります。

提出先：広報委員の上田または八谷まで、下記  
のアドレス宛てに添付ファイル (Word)  
にてお送り下さい。

〒461-8641 名古屋市東区筒井 2-10-31  
愛知大学大学院法務研究科 上田 純子  
e-mail: uejun\*lawschool.aichi-u.ac.jp

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1  
九州大学 EU センター 八谷 まち子  
e-mail: machiko.hachiya\*gmail.com

#### (編集後記)

学会ニューズレター、第 39 号をお届けいたします。今年度 4 月からの理事会の新体制に伴って、広報委員会は 3 人体制となり、新委員の上田純子会員と私が (再び!) NL 編集を担当することになりました。よろしくお願いたします。今号のホットニュースは、7 月に開催されました EUSA-AP 国際会議です。177 枚におさめられた会議の様々な場面は、次の要領で DropBox でご覧いただくことができます。(八谷まち子)

#### EUSA-AP 写真閲覧手順 (DropBox)

1. 以下の URL にアクセスする。  
<https://www.dropbox.com/login?src=logout>

2. 以下のアドレスとパスワードを入れる。  
アカウント: eusaap20170701@gmail.com  
パスワード: eusaap201712

\*このアカウントは、共同アカウントです。どなたでもアクセスでき、写真をダウンロードできます。

3. 終わりましたら必ずログアウトしてください。

日本 EU 学会ニューズレター 第 39 号

(2017 年 (平成 29) 年 8 月 25 日発行)

発行 日本 EU 学会 広報委員会

発行責任者 臼井 陽一郎

編集責任者 八谷 まち子、 上田純子  
.....

【日本 EU 学会事務局】

森井裕一

〒153-8902 目黒区駒場 3-8-

1

東京大学 大学院 総合文化研究科

Tel: 03-5454-6358

E-mail: ymorii\*ask.c.u-tokyo.ac.jp

(日本 EU 学会 HP アドレス)

日本語

<http://www.eusa-japan.org/index.html>

日本 EU 学会 第 38 回 (2017 年度) 研究大会  
 共通論題 「ローマ条約 60 年 - 危機の中の再検証」

2017 年 11 月 18 日(土)~19 日(日)

会 場:九州大学(病院キャンパス) 医学部百年記念講堂

第 1 日 11 月 18 日(土) 開場(受付開始) 12:00~

共通論題 「ローマ条約60年 - 危機の中の再検証」		
理事会 <11:00~12:50>		
ポスターセッション展示<12:00~>(解説は 11 月 19 日)		
1. 全体セッション第 I 部 <13:00~15:20> 報告 報告時間各 25 分 質疑 10 分		
報告者	論 題	司会者
(1) 遠藤 乾 (北海道大学)	欧州複合危機の深層 - 統合史の文脈の中で	森井裕一 (東京大学)
(2) 八谷 まち子 (九州大学)	経済共同体から価値の共同体へ - EU 統合における「世俗主義」	
(3) 久保 広正 (摂南大学)	市場統合と所得格差	
(4) 須網 隆夫 (早稲田大学)	危機の中の EU 法 - EU 法秩序変容の可能性	
休憩 <15:20~15:40>		
2. Plenary Session II <15:40~17:30> (in English) EU Delegation presentation - 15 minutes Guest presentation 30 minutes, Discussants 7 minutes each		
Presenters	Topics	Chairperson
(1) TBD (Delegation of the European Union to Japan)	TBD	Tamio Nakamura (Waseda University)
(2) Brigid Laffan (EUI)	Forging a Union for the 21 Century: From Crisis to Opportunity	
Discussion	Discussants: Paper presenters of the 1. Session	
総 会 <17:30~17:55>		
懇 親 会 <18:00~20:00>		



第2日 11月19日(日) 開場(受付開始) 9:00～

1. 分科会 <9:30～12:00> 報告時間各 30 分 質疑 20 分			
区分	報告者	論 題	司会者
A 経済 分科会	阿由葉 真司 (国際協力銀行)	欧州債務危機後の欧州地域金融の現状と今後	高屋定美 (関西大学)
	佐藤 秀樹 (金沢大学)	欧州銀行同盟(EBU)の制度設計—イギリスとEBUの銀行規制の比較分析を通じて	
	鈴木 敏之 (三菱東京UFJ銀行)	ECBのマイナス金利政策にみえる欧州経済の課題	
B 自由論題	安藤 由香里 (大阪大学)	欧州共通庇護制度における「安全な第三国」とノン・ルフルマン原則	中西優美子 (一橋大学)
	吉本文 (一橋大学(院))	ソマリアに対する包括的アプローチの一貫性に関する一考察	
	原田 豪 (神戸大学(院))	欧州統合におけるEU権限除外：社会政策領域における除外規定の導入過程	
C 自由論題	木村 勇 (大阪府立大学(院))	EUにおけるギャンブル政策と加盟国への影響—「サービス提供の自由」と「設立の自由」を中心に—	岩田健治 (九州大学)
	松澤 祐介 (西武文理大学)	中欧の旅客鉄道市場—チェコ、スロバキアのEU加盟を通じた鉄道改革・自由化の成果と課題	
	松浦 一悦 (松山大学)	EUのギリシャへの金融支援とEUガバナンス	
昼食・休憩/理事会 <12:00～13:30>			
ポスターセッション<12:00～13:30>(掲示は大会中常時)			
植村 充 (東京大学(院))	EU 対外移民政策と EU 構成国-第三国間の二国間協定 — フランス国内政治を視野に収めて		
高津 智子 (九州大学(院))	冷戦初期におけるアメリカのヨーロッパ統合研究の発展 — ハーヴァード大学の「連邦主義に関する研究」プロジェクトに着目して		
花田 エバ (神戸大学)	European Banking Union and the EU Member States in Central and Eastern Europe (EUの銀行同盟と中東欧のEU加盟国)		
総 会 <13:30～13:45>			
2. 全体セッション第Ⅲ部「BrexitとEUのゆくえ」<13:45～16:30> 一般公開、九州大学ジャンモネCOE共催 パネルディスカッション・報告時間各10分			
報告者	論 題		司会者
(1) 伊藤 さゆり (ニッセイ基礎研究所)	英国のEU離脱と金融同盟		細谷雄一 (慶應義塾大学)
(2) 上田 純子 (愛知大学)	Brexitと域内企業活動への影響		
(3) 鶴岡 路人 (慶應義塾大学)	『EU27』の挑戦—英国離脱後のEUの政治と安全保障		
(4) 広岡 裕児 (ジャーナリスト)	Brexitについてのフランス国会の反応		
ディスカッション			